

安心ゆとり年金

通貨指定型個人年金保険(24)

参照指数のお知らせ

2026年5月末現在

指数あり



米ドル建

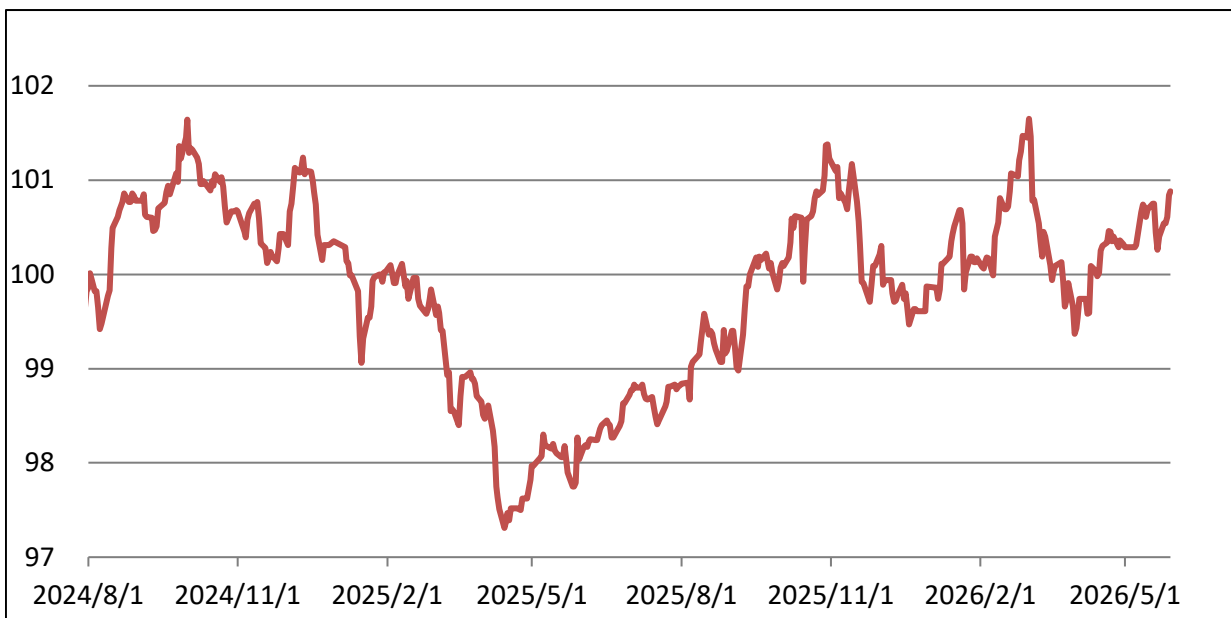
この商品は、第一フロンティア生命を引受保険会社とする生命保険です。預金とは異なり、また、元本割れすることがあります。

この商品には、年金額を定めるしくみとして「指数あり」「指数なし」があります。
「指数あり」の年金額は、「定額部分の年金」と「上乘せ部分の年金」の合計額となります。
このレポートは「上乘せ部分の年金」の金額を計算するために用いる参照指数の動向について説明するものです。

参照指数の内容

参照指数の名称	指数スポンサー	指数助言会社
世界資産分散投資指数(米ドル)	ゴールドマン・サックス・インターナショナル	バーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社

参照指数の推移



* 設定日は2024年8月1日です。

参照指数の騰落率

1カ月	0.56%
3カ月	-0.58%
6カ月	0.79%
1年	2.90%
3年	-
設定来	1.02%
参照指数 (2026年5月末)	100.88

参照指数の投資対象と資産配分比率

対象資産	投資対象	騰落率 (1カ月)	資産配分比率	
			前月末	当月末
国内株式	日本株式先物	4.88%	2.46%	3.30%
先進国株式	アメリカ株式先物	4.62%	6.74%	9.66%
	欧州株式先物	4.74%	0.34%	0.00%
	イギリス株式先物	1.75%	0.75%	1.33%
	カナダ株式先物	2.05%	0.72%	0.47%
	オーストラリア株式先物	-0.47%	0.00%	0.41%
新興国株式	新興国株式先物	7.18%	1.34%	1.74%
国内債券	日本国債先物	-0.87%	16.71%	17.08%
先進国債券	アメリカ国債先物	-1.02%	1.15%	1.46%
	ドイツ国債先物	0.50%	0.88%	0.80%
	イギリス国債先物	1.52%	0.17%	0.32%
	カナダ国債先物	0.34%	0.98%	0.99%
	オーストラリア国債先物	1.08%	1.07%	1.45%
短期金融資産(現金)			66.67%	60.99%

* 1カ月騰落率は各対象資産を米ドル建てエクセスリターンに換算し、月末営業日の参照指数に対応する値を基に計算したものです。

* 上記の運用実績は過去の実績であり、将来の運用実績を示唆あるいは保証するものではありません。

出所:ゴールドマン・サックスから提供を受けたデータをもとに第一フロンティア生命作成

この資料は、5ページ構成です。必ず他のページとあわせてお読みください。

1/5ページ

運用概況

以下は、ゴールドマン・サックスから提供を受けた情報を基に作成しています。

<市場概況>

5月の株式相場は、前月末比でそれぞれ国内株式相場は6.17%、米国株式相場は5.15%、欧州株式相場は2.87%、英国株式相場は0.29%、カナダ株式相場は1.99%、豪州株式相場は0.76%となり、新興国株式相場は9.50%でした。一方債券市場は、日本10年債利回りは0.14%上昇(価格は下落)、米国10年債利回りは0.06%上昇(価格は下落)、欧州10年債利回りは▲0.10%低下(価格は上昇)、英国10年債利回りは▲0.20%低下(価格は上昇)、カナダ10年債利回りは▲0.13%低下(価格は上昇)となり、オーストラリア10年債利回りは▲0.23%低下(価格は上昇)しました。

<運用概況>

参照指数(USD)は前月末比で0.56%上昇しました。組入資産のパフォーマンスについては、ドイツ国債、カナダ国債、オーストラリア国債、日本株式、アメリカ株式、欧州株式、イギリス株式、カナダ株式、新興国株式はプラスに寄与しました。日本国債、アメリカ国債はマイナスに影響しました。当月の運用総額(ポジション量)の平均は37.06%となりました。

以下は、指数助言会社であるパーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社から提供を受けた情報を基に作成しています。

【市場環境】

<リスク性資産>

国内株式市場は上昇しました。米国とイランの戦闘終結に向けた期待感や米国の半導体株の上昇、国内企業の良好な業績見通し等を背景に、月間を通し上昇しました。

米国株式市場は上昇しました。米雇用統計で労働市場の底堅さが確認されたことや米国とイランにおける和平交渉の進展期待等を背景に、月間を通し上昇しました。

<安定資産>

国内債券市場(10年国債)は下落(金利は上昇)しました。米国とイランの和平交渉の難航を背景に原油価格の高止まりを通じたインフレ懸念が意識されたほか、日本政府の補正予算編成をめぐる財政悪化懸念が意識されたことで、月間を通し下落(金利は上昇)しました。

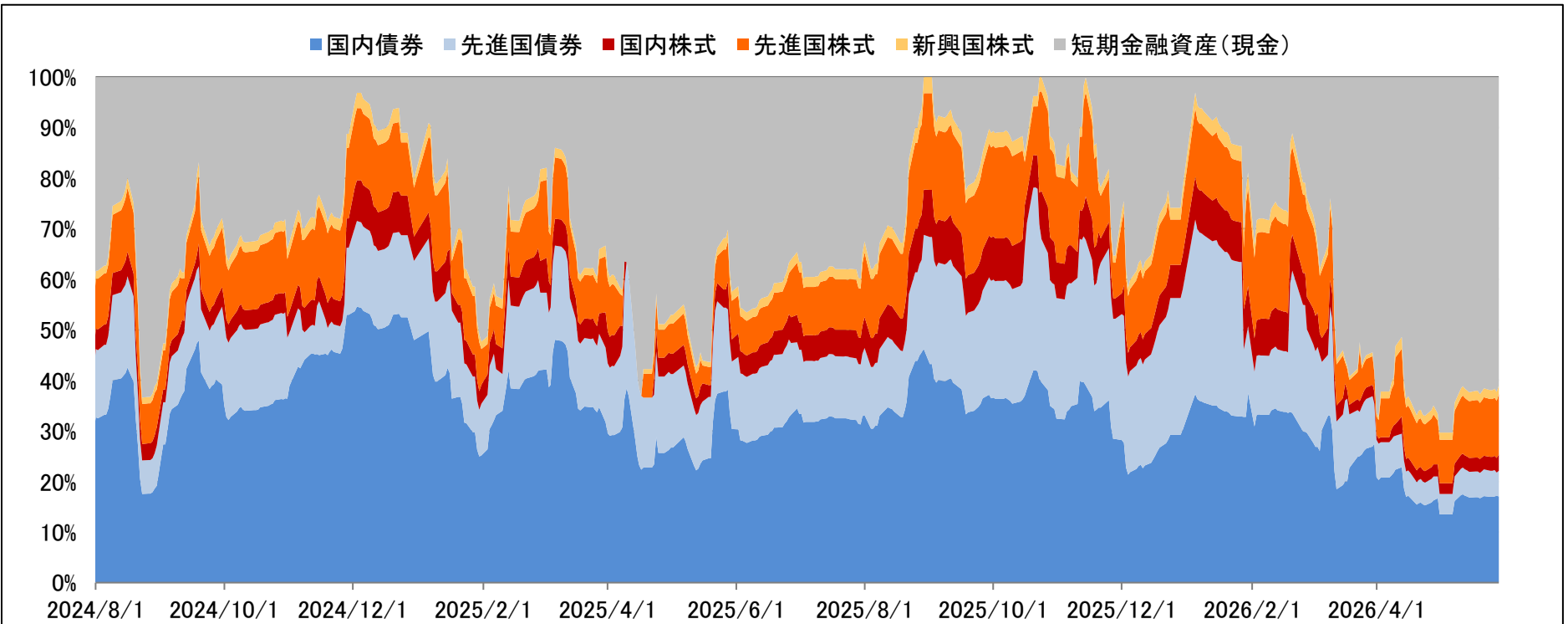
米国債券市場(10年国債)は下落(金利は上昇)しました。原油価格の高止まりや米物価関連指標の上振れを受けてインフレ懸念が意識されたことで下落(金利は上昇)しました。月後半では、和平交渉の進展期待を背景とした原油安を受け、一時上昇(金利は低下)しましたが、インフレ懸念や今後の金融政策への不透明感を材料に上昇(金利の低下)幅は抑制され、月間を通し下落(金利は上昇)しました。

【資産配分状況】

当月は、国内株式、外国株式の配分を引き上げ、国内債券、外国債券の配分を引き下げました。

※上記はボラティリティコントロール前の資産配分に関するコメントであり、実際の指数における資産配分とは異なる場合があります。

資産配分の推移



* 上記の運用実績は過去の実績であり、将来の運用実績を示唆あるいは保証するものではありません。

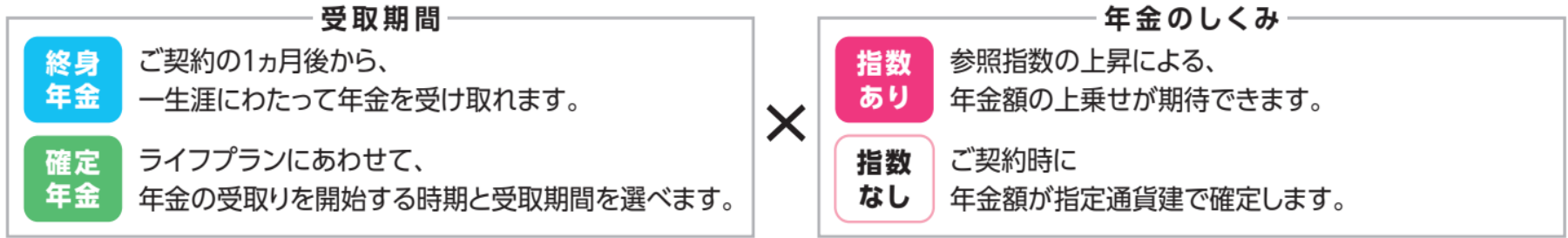
出所:ゴールドマン・サックスから提供を受けたデータをもとに第一フロンティア生命作成

この資料は、5ページ構成です。必ず他のページとあわせてお読みください。

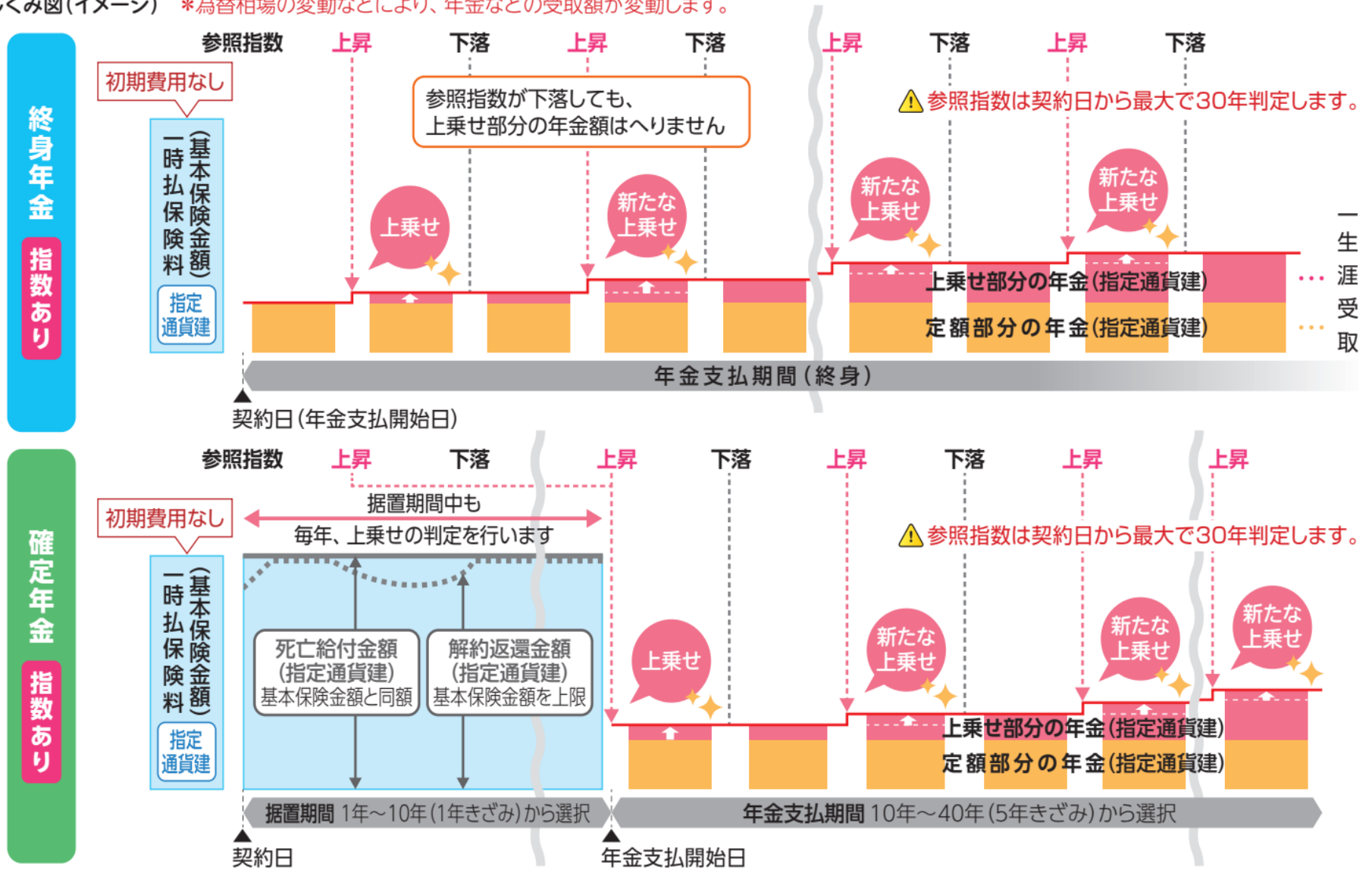
2/5ページ

この保険のしくみと特徴

選べる年金の「受取期間」と「しくみ」で、お客さまのニーズにお応えできる年金保険です。



しくみ図(イメージ) *為替相場の変動などにより、年金などの受取額が変動します。



終身年金 指数なし

確定年金 指数なし

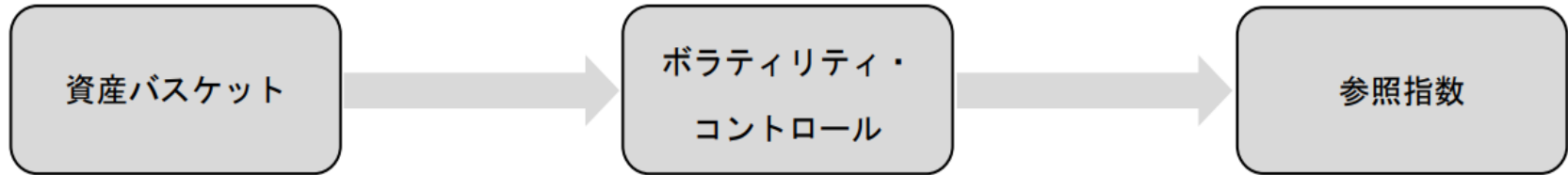
・ご契約時に、「一生涯」または「一定期間」受け取れる年金額が指定通貨建で確定します。
・年金額は、**指数あり**の「定額部分の年金額」と比べて大きくなります。

*上記しくみ図はイメージを表したものです。一時払保険料に対する年金額の高さの割合は実際の金額の割合とは異なり、また、将来の年金額などを保証するものではありません。

*現在の積立利率につきましては、募集代理店または第一フロンティア生命お客さまサービスセンターにお問い合わせください。

*本資料は「指数あり」にのみ関連する情報をご提供しています。

- 参照指数のしくみについては、以下のとおりです。



(1) 資産バスケット

- 世界の債券および株式を投資対象資産とします。

資産クラス	対象資産	構成要素
債券	国内債券	日本の国債市場の先物に対するロール戦略指数
	先進国債券	米・独・英・加・豪の国債市場の先物に対するロール戦略指数
株式	国内株式	日本の株式市場の先物に対するロール戦略指数
	先進国株式	米・欧・英・加・豪の株式市場の先物に対するロール戦略指数
	新興国株式	新興国の株式市場の先物に対するロール戦略指数

- 指数助言会社は、独自の定量モデルを活用した運用プロセスを通じて各資産への配分比率を決定します。当該運用プロセスは、基本資産配分戦略、戦略的資産配分戦略および機動的資産配分戦略からなる3つの資産配分戦略で構成されます。なお、各資産への配分比率の合計は100%を上回る場合があります。
- 基本資産配分戦略では、各投資対象資産からバランスよく収益を獲得することで、長期的にリスクに対して効率的なリターンを獲得することをめざします。各投資対象資産の値動きが資産配分全体に与える影響が概ね均等になる資産配分をベースとして、事前に定められたリスク水準の範囲内で期待リターンが最大となる資産配分を月次で決定します。
- 戦略的資産配分戦略では、基本資産配分戦略からの更なるパフォーマンス向上を目指します。複数の定量モデルによって足元の経済環境・市場環境などを分析し、資産配分を月次または週次で調整します。
- 機動的資産配分戦略では、複数の定量モデルを活用し、投資対象資産の急落リスクを予測します。モデルの予測に基づいて資産配分を日次で機動的に調整することで、資産全体の大きな損失回避を目指します。
- これらの資産配分戦略により決定される資産配分比率を、「資産バスケット」といいます。(資産バスケットは、短期金利を控除したエクセス・リターンベースで計算されます。) 資産バスケットは円建てで計算されます。

(2) ボラティリティ・コントロール

- 資産バスケットについて過去約3か月を遡りボラティリティ（価格変動率）を計測し、当該ボラティリティが年率3%となるように資産バスケットのポジション量を調整します。年率3%を上回る場合には、資産バスケットのポジション量を減少させ、その減少した分は短期金融資産（現金）に振り替えます。(当該短期金融資産にかかる利回りはゼロとします。) 年率3%以下の場合には、資産バスケットのポジション量を最大100%とします。以下、当該ルールに基づき構成される資産配分を「ボラティリティ・コントロール戦略（円）」といいます。
- ボラティリティ・コントロール戦略（米ドル）は、ボラティリティ・コントロール戦略（円）の日々の損益部分に対して、対米ドルで換算を行い計算します。ボラティリティ・コントロール戦略（豪ドル）は、ボラティリティ・コントロール戦略（円）の日々の損益部分に対して、対豪ドルで換算を行い計算します。
- ボラティリティ・コントロール戦略（円）、ボラティリティ・コントロール戦略（米ドル）およびボラティリティ・コントロール戦略（豪ドル）は、以下、個別にまたは総称して「ボラティリティ・コントロール戦略」といいます。
- * 将来のボラティリティが一定であること、あるいは目標値が達成されることのいずれも約束するものではありません。また、年率3%の収益を目標としていることを意味するものではありません。投資環境によっては、参照指数のボラティリティが当初意図した水準を下回るもしくは上回る場合があります。

(3) 参照指数

- 各東京営業日に、一番直近に取得できるボラティリティ・コントロール戦略の価額を、当該東京営業日における参照指数の価額とします。通常は、各構成要素にかかる2営業日前の終値を基にしています。
- 参照指数の計算にあたり、複製コスト（事前に水準を確定することが困難なため、水準を表示することはできません。）が控除されます。
- * 複製コストは、参照指数の各構成要素を実質的に保有・売買する際に発生する取引費用等に相当するコストです。

この保険のリスクと費用について

解約する場合などのリスクについて(損失が生じるおそれ)

この保険は、市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額や年金の一括払時の支払額などに反映させるための市場価格調整を行うこと、ご契約の解約や年金の一括払などをする際に解約控除がかかることなどの理由により、解約返還金額、お支払いした年金と年金の一括払時の支払金の合計額などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

為替リスクについて(損失が生じるおそれ)

為替相場の変動により、お支払時の為替レートで円貨に換算した年金合計額、死亡給付金額、解約返還金額、お支払いした年金と年金の一括払時の支払金の合計額などが、ご契約時の為替レートで円貨に換算したこれらの金額を下回る場合や、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り損失が生じるおそれがあります。

費用について(この保険に係る費用は、以下の費用の合計になります)

■ご契約の締結・維持などに必要な費用

・積立利率の計算にあたってはご契約の締結・維持などに必要な費用の率(=保険契約関係費率)を、当社所定の利率(積立利率の適用期間経過後)の計算にあたってはご契約の維持などに必要な費用の率(=保険契約関係費率)を、あらかじめ差し引いております。

・「指数あり」の場合、定額部分の年金額の計算にあたって、上乘せ部分の年金額を受け取るために必要な額(年齢・性別などによって異なるため具体的な数値は表示しておりません。なお、指数助言にかかる費用も含まれます。)を控除しています。

また、参照指数の計算にあたって、複製コスト(事前に水準を確定することが困難なため、水準を表示することはできません。)が控除されます。

*複製コストは、参照指数の各構成要素を実質的に保有・売買する際に発生する取引費用等に相当するコストです。

(参考)複製コストのシミュレーション結果:年率0.33%~0.64%の範囲(対象期間:2007年5月~2024年11月)

■ご契約の解約や年金の一括払などの際の費用

解約返還金額や年金の一括払時の支払額などは、つぎの費用を控除したうえで計算されます。解約控除 = 基本保険金額 × 以下の解約控除率

適用 されている 積立利率	年金の種類		終身年金			確定年金	
			契約年齢			据置期間	
	40歳~64歳	65歳~79歳	80歳~90歳	1年~4年	5年・6年	7年~10年	
3.00%以上	4.20%~0.39%	4.50%~0.00%		5.00%~0.16%	5.00%~0.50%		
3.00%未満	2.90%~0.29%	3.10%~0.29%	3.10%~0.00%	3.50%~0.11%	3.50%~0.35%		

*契約日の10年後の契約応当日以降は、解約控除はかかりません。

■通貨を換算する場合の費用 *年金(分割払の場合は分割払金)を円貨に換算してお受け取りになる場合の為替レートはTTMとなり、為替手数料はかかりません。

以下の特約の為替レートには、為替手数料が反映されており、当該手数料はお客様の負担となります。

保険料円貨入金特約	TTM+50銭	円貨支払特約	TTM-50銭	保険料外貨入金特約	(払込通貨のTTM-25銭)÷(指定通貨のTTM+25銭)
-----------	---------	--------	---------	-----------	-------------------------------

*上記の為替レートは、2025年6月現在の数値であり、将来変更することがあります。

*TTMは、第一フロンティア生命所定の金融機関が公表する値となります。

■この他に外貨のお取扱いに必要な費用を負担していただくことがあります。

この保険商品のご検討に際しては、必ず外貨建保険販売資格を持つ生命保険募集人にご相談ください。

この資料は参照指数に関する内容を参考情報としてお知らせするために作成したものです。ご検討・お申込みに際しては、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)兼 商品パンフレット」「ご契約のしおり・約款」などをお読みください。

[募集代理店]

[引受保険会社]

第一フロンティア生命保険株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-1日比谷フォートタワー

ホームページ <https://www.d-frontier-life.co.jp/>

お客さまサービスセンター

フリーダイヤル

0120-876-126

営業時間 9:00~17:00(土日、祝日、年末年始などの休日を除く)